

2-8

主題	認知症ケアを助けるプロジェクトが施設環境を変えた
----	--------------------------

みーんなでゆったり

副題	施設環境改善とケアの質の向上は同時進行
----	---------------------

研究期間	12ヶ月
------	------

事業所	富士見台特別養護老人ホーム
-----	---------------

発表者：西本 ちひろ	アドバイザー：
------------	---------

共同研究者：松本 正美

電話	03-5241-6010	メール	
----	--------------	-----	--

FAX	03-5241-1760	URL	
-----	--------------	-----	--

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	<p>緑の多い閑静な住宅街に位置し、施設内には地域包括支援センター支所、居宅介護支援事業、訪問介護事業、通所介護事業を併設しています。近隣は練馬区内一番の高齢化地域となっています。施設は、認知症になっても安心して暮らせる地域の核になれるよう、施設内事業全てが連携、協働して取り組んでいます。</p>
------------------------------	---

《研究前の状況と課題》

富士見台特別養護老人ホームでは、居室以外の共有スペースが少なく環境の改善ができる余地がないと専門家から評価されました。しかし、従前よりお客様のくつろぎのスペースがないことが課題になっていました。そのために、環境づくりを開始するにあたり食堂の一部を改修しました。その実施と同時に、環境づくりの担当として介護士がコアメンバーとなり、平成21年度の環境づくりが始まりました。グループ名は「ゆったりくらぶ」

《研究の目標と期待する成果》

PEAP の手法の指導を受けながらステップに沿った改善をする事で、生活者である入居者の目線とニーズに立った改善を推進することができる。物理的環境改善は、ケアの改善に繋がり、社会的環境、運営的環境の改善へと拡大していく。この取り組みを、係わる全ての職員で実施することで、改善の根拠や環境についての意識の共有ができる。

《具体的な取り組みの内容》

平成 21 年 5 月より認知症ケアを助ける環境改善の手法である PEAP の勉強会を施設全職員向けに行うことから開始し、PEAP のステップに沿ったプログラムを忠実に実行していった。環境改善の必要とされたところを、生活者の視点とその根拠を持って具体的に、次々に改善を実行していった。物理的環境改善は、ケアの見直しを伴うこともあり、ある程度のケア改善へと繋がっていった。日々の改善を改善前、改善後と比較検討するなど、意識して環境を考えることをくりかえした。

《取り組みの結果と評価》

日々の業務の中で環境の及ぼす影響を実感し、物理的環境改善にとどまることなく、社会的環境改善、運営的環境改善は常に一体として考えケアの質の改善にしていかなければならないことが解りました。また、職員だけでの環境改善にとどまらず、ご家族、ボランティアの方なども巻き込んでの環境づくりがより効果的であることも分かりました。

《まとめ》

環境づくりは、そこに暮らす方々を知ることから始まり、適切な環境はケアの質へと繋がっています。その手法である PEAP を活用しての環境改善を継続します。

《参考文献》

《提案と発信》

福祉施設では、認知症は特別なものではなく専門職として根拠のある適切なケアの提供が求められています。誰にとっても居心地の良い環境を整備し高齢者にとっても、職員にとっても安全で安心できる生活の場を作りましょう。

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。